第４回日本リンパ浮腫治療学会四国地方会

開 催 日 時：2021 年８月 22 日（日）13：00～16：20

開 催 方 法：オンライン開催（ライブ配信）

当番世話人：四国がんセンター　河村進

日本赤十字広島看護大学　大西ゆかり

第４回日本リンパ浮腫治療学会四国地方会の開催にあたって

第 4 回日本リンパ浮腫治療学会四国地方会は、昨年コロナ感染拡大で中止となりました。今年こそは松山での現地開催をと準備を進めてきましたが、残念ながら全国的にさらに感染が拡大しております。昨年からいろんな学会や研究会がオンライン開催となって慣れてきた感があります。今回は移動せずにタイムラグもほとんどなく議論を交わすことができるオンラインでの開催とさせていただきました。

第１部のテーマを四国でのリンパ浮腫外科治療の現状とし、香川労災病院形成外科小野田聡先生（現職：富山大学附属病院）、香川県立中央病院形成外科品岡玲先生、徳島大学病院形成外科山下雄太郎先生、四国がんセンター形成外科山下昌弘先生の報告を、第 2 部は各施設のチーム医療体制をテーマに、香川県立中央病院看護部上山和代先生、リムズ徳島クリニック看護師髙西裕子先生、高知医療センター看護師戎井貴美子先生、四国がんセンターリハビリテーション科菊内祐人先生から発表していただきます。

特別講演は、JR 東京総合病院リンパ外科・再建外科の三原誠先生と原尚子先生の両先生にお願いしています。今回は市民向けセッションをお休みとしました。その分医療者同士で忌憚のない意見交換ができるものと期待しております。

四国でのリンパ浮腫診療の最新情報と最先端のリンパ浮腫治療を短時間で学べる内容ですので、多数の皆様の参加をお待ちしております。

2021 年 8 月

第４回日本リンパ浮腫治療学会四国地方会

当番世話人 河村進（四国がんセンター　特命副院長）

大西ゆかり（日本赤十字広島看護大学）

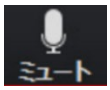
聴講についてご案内とお願い

1．COVID-19 対策として、Zoom を利用したオンライン開催になります。

2．当日は、配信された招待メールの URL より接続をお願いいたします。

・開催 20 分前（12：40）からホストを立ち上げておきます。

・表示名は「ご施設名：お名前」の統一でお願いします。　例）四がん：河村

・発言時は、on 

で発言いただき、発言終了後は off

に設定いただき、on と off を繰り返してください。

・発表時は『画面の共有』からスライドを表示させ、発表を行ってください。

3．LT 更新クレジットについて

・地方会開催中にキーワードを 2 つお示しします。対象者の方は、聴講参加の証となりますので、キーワードを記録いただきますようお願いします。

・聴講終了後、下記の URL または QR コードより、キーワードの登録をお願いします。　https://forms.gle/L4CA6oH7L9B8AvDs5

・後日、参加証を送付いたします。

4．当日の撮影・録画はご遠慮ください。

＊問い合わせ先＊

四国がんセンター　砂野由紀

電話：089-999-1111（代）

Email：sunano.yuki.wg@mail.hosp.go.jp

プログラム

13:00～　開会挨拶

日本リンパ浮腫治療学会四国地方会　代表世話人

リムズ徳島クリニック　小川佳宏先生

13:05～14:05　第１部：四国でのリンパ浮腫外科治療の現状　発表：10分

司会：リムズ徳島クリニック　小川佳宏先生

１）リンパ浮腫治療チームによる保存的治療と外科的治療の複合療法
　香川労災病院　形成再建外科リンパ浮腫チーム　小野田聡先生
２）複合的治療を中心としたリンパ浮腫外科治療戦略
　香川県立中央病院　形成外科、岡山大学病院　形成再建外科　品岡玲先生
３）徳島大学　リンパ浮腫外来の現状
　徳島大学　形成外科　山下雄太郎先生
４）当院での過去３年のリンパ浮腫治療について
　四国がんセンター　形成外科　山下昌宏先生

14:05～14:45　第２部：各施設のチーム医療体制　発表：７分

座長：高知大学医学部　渡橋和政先生

１）リンパ浮腫治療サポートネットワークの構築　－院内から地域へ！－
　香川県立中央病院　看護部　上山和代様
２）肩関節の可動域障害を伴う乳がん術後リンパ浮腫に対する多職種・地域連携
　リムズ徳島クリニック　看護師　髙西裕子様
３）リンパ浮腫外来の取り組み
　高知医療センター　看護師　戎井貴美子様
４）当院におけるリンパ浮腫診療について
　四国がんセンター　リハビリテーション科　菊内祐人様

休憩 10分

14:55～15:35　特別講演１

司会：四国がんセンター　河村進

リンパ外科治療の最前線

～我々はどこまで進み、どこで悩んでいるのか！？～

講師：JR 東京総合病院　リンパ外科・再建外科　三原誠先生

15:35～16:15　特別講演２

司会：香川県立中央病院　古市浩美先生

科学的データに基づいたリンパ浮腫チーム医療を確立する

～重症リンパ浮腫のリバウンド予防～

講師：JR 東京総合病院　リンパ外科・再建外科　原尚子先生

16:15～　閉会挨拶

当番世話人　日本赤十字広島看護大学　大西ゆかり

第１部：四国でのリンパ浮腫外科治療の現状

１）リンパ浮腫治療チームによる保存的治療と外科的治療の複合療法

〇小野田（おのだ） 聡（さとし）、木下雅人、西紋佳奈、山下智美

香川労災病院　形成再建外科リンパ浮腫チーム

当院では、2018 年にリンパ浮腫治療チームを開設し、保存的治療と外科的治療の両方を１施設で施行可能な治療形態を構築してきた。

専門外来にて形成外科医とリンパ浮腫治療専門看護師が共に診察を行い、治療方針の決定を行った。手術患者は術前から入院時を通じて複合的理学療法の指導・実践を行い、非手術患者に関しては外来にてセルフケアの施行内容確認や施行困難症例に対する治療計画の再検討を行った。

開設以来約２年間で治療に関わった患者は 249 名であった。外科的介入を行ったの 20 例で、全例リンパ管静脈吻合を行った。治療継続困難となった症例は２名のみであった。

リンパ浮腫治療認定看護師と共に外来診療から入院加療までを行うことで、治療計画の作成・施行及びフィードバックによる計画の見直しが容易となった。この結果、個々の患者の状態に応じた治療が可能となり、患者の治療中のドロップアウトを最小限にすることが出来たと考えられた。

第Ⅰ部：四国でのリンパ浮腫外科治療の現状

２）複合的治療を中心としたリンパ浮腫外科治療戦略

〇品岡 玲[1)]、上山和代[2)]、林優子[3)]、古市浩美[3)]
香川県立中央病院　形成外科、岡山大学病院　形成再建外科[1)]
香川県立中央病院　看護部[2)]
香川県立中央病院　形成外科[3)]

我々は複合的治療を中心に治療戦略を立てている。そのため複合的治療を十分に行った患者にリンパ管静脈吻合術(LVA)を追加している。これまでの当院の手術成績を見ると複合的治療による体積減少に加え、LVA を行うことでさらなる体積減少を得ることができている。しかしながら、早期症例患者では体積が改善させられるが、２期後期以上では複合的治療が十分できていないと治療効果が少ないという弱点があることも分かった。
LVA は複合的治療に追加して体積減少効果を得ることができるが、逆に有効な LVA を行うためには、有効な複合的治療が必要になるという、相補的な関係が示唆される。ガイドラインなどでは複合的治療のエビデンスは高いが、リンパ管静脈吻合術（LVA）は有効性が示されている状況ではない。今後は十分な複合的治療が行われている患者群で、重症度を限定し治療効果を示していきたい。

第１部：四国でのリンパ浮腫外科治療の現状

３）徳島大学　リンパ浮腫外来の現状

やましたゆうたろう
〇山 下雄 太郎 、橋本一郎
徳島大学　形成外科

徳島大学では 2019 年の 4 月よりリンパ浮腫外来を開設した。しかし現在リンパ浮腫の担当医師は 1 名、リンパ浮腫療法士は不在で、専任の看護師もいない。午前中のみの外来枠でありリンパ浮腫以外の患者の診察もあるため多くの時間を割けず、リンパ浮腫に対して複合的理学療法のうちスキンケア＋圧迫療法のみでの治療となる事が多い。用手的リンパドレナージや圧迫下での運動療法などは患者様に指導するのみにとどまっており、十分な治療を提供できているとは言えないのが現状である。外科的治療に関しても症例数はまだ多くないため、まずは外来時間の確保、複合的理学療法の充実に努めて外来患者数を増やして手術適応となる症例を徐々に増やしていきたい。当科で行っている外科治療についても報告する。

第１部：四国でのリンパ浮腫外科治療の現状

４）当院での過去３年のリンパ浮腫治療について

〇山下昌宏（やましたまさひろ）、河村進、中山盛皓

四国がんセンター　形成外科

2020 年は新型コロナウイルスの感染､流行により世間の動向は大きく変わった。院内のコロナ感染対策対応を新たにとる必要があり、また患者もコロナ感染を不安視し受診控えが起こったといわれている。

また蔓延防止時のコロナ感染対策を理由に手術ができない時期があった。当院の過去３年のリンパ浮腫の状況について振り返った。

2018 年外来延べ患者数は 860 人、LVA20 件上肢７件、下肢 13 件、2019 年外来延べ患者数　1097 人、LVA26 件、上肢 12 件、下肢 14 件、2020 年外来延べ患者数 943 人、LVA27 件、上肢 17 件、下肢 10 件であった。

2020 年の外来患者数は 2019 年と比べて 85%程度となっており、やはり受診控えが起きていたものと考えられた。手術件数も手術制限していた時期があったが、2019 年は LVA26 件、2020 年は 27 件と１件増加しており、患者の少しでもリンパ浮腫を良くしたい、という根強い希望があると考えられた。

第２部：各施設のチーム医療体制

１）リンパ浮腫治療サポートネットワークの構築　－院内から地域へ！－

〇上山（かみやま） 和代（かずよ）

香川県立中央病院　看護部

当院は香川県内のリンパ浮腫治療の基幹病院として重要な役割を担い、形成外科はリンパ浮腫専門診療を標榜し、県内外のリンパ浮腫および浮腫全般の患者を幅広く受け入れ治療を提供している。院内リンパ浮腫治療チームはそれに応えるべく治療体制を構築し、継続支援に取り組んできた。各診療科や医療者側のリンパ浮腫治療や患者の理解が我々の現在の活動や患者サポートへと結びついている。

近年、地域医療の在り方や患者・家族への社会福祉、介護支援体制の整備と共に、高齢化するリンパ浮腫患者の在宅支援が受けやすくなったと感じる反面、我々もこれまで以上に様々な病状、浮腫を抱える患者や家族、医療・介護提供者へより広く包括的な支援が求められている。様々な専門家らと専門性や役割を生かしつつより活発に連携すると共に、当院から地域医療やより高度治療へと支援の輪を広げていくことが、これからのリンパ浮腫治療に重要であると考える。

第２部：各施設のチーム医療体制

２）肩関節の可動域障害を伴う乳がん術後リンパ浮腫に対する多職種・地域連携

〇髙 西裕子[1)]、上田亨[1)]、森祐介[1)]、宮城真琴[1)]、三木恵美[2)]、今井芳枝[3)]、小川佳宏[1)]

リムズ徳島クリニック[1)]

徳島県立中央病院[2)]

徳島大学大学院医歯薬学研究部[3)]

肩関節可動域制限は乳がん手術後の代表的な合併症の一つで、乳がん術後上肢リンパ浮腫患者にも多くみられる。発症早期のリンパ浮腫の場合、日常生活指導と共に肩関節の運動を指導することで浮腫が改善することもあり、早期の介入が必要である。がん治療施設では退院後リハビリテーションを継続することが難しいことから、当院ではこれらの施設と連携し、肩関節可動域制限を伴うリンパ浮腫患者の紹介を受け、可動域制限が強く見られる場合、通常のリンパ浮腫のケアに加え、理学療法士による可動域訓練や自動運動の指導を取り入れている。

徳島県では 2015 年より徳島県がん診療連携協議会主催のリンパ浮腫セラピスト養成講習を開催し、徳島大学大学院がん看護専門看護師養成課程ではカリキュラムにリンパ浮腫を取り入れ、修了生はがん診療病院におけるリンパ浮腫相談窓口の役割を担っており、これらの施設と当院とのネットワークについて紹介したい。

第２部：各施設のチーム医療体制

３）リンパ浮腫外来の取り組み

〇戎 井 貴美子[1)]、濱田盟子[1)]、山本ひとみ[1)]、高畠大典[2)]、山本寄人[2)]
高知医療センター　看護局[1)]
高知医療センター　医療局[2)]

当センターは高度急性期医療を担う中核病院であり、がん拠点病院となっている。2009 年からリンパ浮腫外来を開設し、現在医師 2 名(産婦人科、乳腺外科)、リンパ浮腫療法士(Ns)2 名で月 7 日外来診療を行っている。2020 年度リンパ浮腫外来患者はのべ 98 件であり、リンパ浮腫療法士が全件に直接介入し日常生活指導・弾性着衣の選択を行いセルフケア確立への支援に努めている。リンパ浮腫指導管理料は算定しているが、複合的治療料は算定しておらず全て保険診療で対応しているため、マニュアルリンパドレナージは行っていない。そのため、浮腫の程度が強くドレナージが必要な患者は希望に応じ地域治療院へ紹介を行っている。患者は当院で手術した婦人科がん、乳腺がん患者が多く、外来診療を通し浮腫の早期発見に努めており、重症症例は少ない。

今後は、現在のケアを継続しつつ、がん拠点病院の役割として、地域連携の強化、コスト算定を含めた体制の見直しが必要である。

第２部：各施設のチーム医療体制

４）当院におけるリンパ浮腫診療について

〇菊内（きくうち） 祐人（まさと）

四国がんセンター　リハビリテーション科

【目的】

今回、当院のリンパ浮腫診療とリハビリテーション科の取り組みについて紹介する。

【リンパ浮腫診療について】

当院では、リンパ浮腫診療として、リンパ浮腫外来、リンパ浮腫ケア外来、入院での集中排液・リンパ管静脈吻合術が行われている。形成外科医師、看護師、理学療法士、作業療法士が関わっており、連携を図るためリンパ浮腫ミーティング、リンパ浮腫セラピストミーティングを月１回行っている。

【リハビリテーション科の取り組み】

乳癌患者の上肢機能障害を予防する取り組みを行っており、術後患者のフォローを実施している。

2020 年 4 月から 2021 年６月までのリンパ浮腫外来受診患者における、リハビリテーション介入状況を調査した。期間中の上肢の受診者数は 226 名。紹介時介入中の患者は 107 名、そのうちリンパ浮腫診療につながった患者は 33 名だった。継続した介入により浮腫の早期発見につながる可能性がある。

特別講演 I

リンパ外科治療の最前線
～我々はどこまで進み、どこで悩んでいるのか！？～

JR 東京総合病院　リンパ外科・再建外科
三原 誠（みはらまこと）　先生

【背景】全身性リンパ管低形成症（Generalised lymphatic dysplasia／特発性リンパ性胸腹水および四肢リンパ浮腫）はまれな疾患ではあるが、原因不明で、遷延した場合,免疫不全、呼吸不全、栄養障害に陥り高い確率で、死に至る。開胸、開腹下にリンパ液漏出部の焼灼、結紮が行われることがあるが、漏出部が特定されなかったり、胸膜や腹膜からびまん性にリンパ液が漏出したりすることもあると報告されている。また手術自体が大きな侵襲である。われわれは、普段リンパ浮腫診療に用いている最新のリンパ外科における検査法、治療法を、本疾患に応用した。【方法】新生児の特発性リンパ性胸腹水の患児 13 人に対して ICG リンパ管造影法を行い、そのうち 6 人にリンパ管静脈吻合術（lymphatio-venous anastomosis; LVA）を行った。また、1 名においては、新生児期より乳び胸腹水および下肢リンパ浮腫が生じ、治療方法がなく、92 才まで放置された成人 1 症例。新生児科医により保存的加療を行われていたが、胸腹水が改善しない状態であった。外科治療を行った症例は、男児 1 人、女児 4 人で、手術時の月齢は 1 から 3 ヶ月であった。ICG を手足の皮内に注射し、直後および数時間後の所見を赤外線カメラで観察した。【結果】LVA を行った 5 人のうち、3 名で著効（胸腹水が消失）、1 名で有効（胸水が減少）、3 名で不変であった。【結論】我々は、新生児科・放射線科・リンパ外科の他施設に勤務する医師がチームを築き、薬物療法（新生児科医師）・リンパ管内治療（放射線科医師）・リンパ外科治療（リンパ外科医）の治療選択を適宜選択し、治療成績が向上してきたことも併せて報告する。小児症例のみならず、成人症例の経験も併せて報告する。

MEMO

特別講演２

科学的データに基づいたリンパ浮腫チーム医療を確立する
～重症リンパ浮腫のリバウンド予防～

JR 東京総合病院　リンパ外科・再建外科
原尚子（はらひさこ）　先生

リンパ浮腫治療においては、手術と保存療法の組み合わせが重要である。しかし、多職種の連携は簡単ではなく、チーム医療はそれぞれのメンバーのたゆまぬ努力と気遣いの賜物である。当院で行っているリンパ浮腫チーム医療について報告する。

当院では、重症リンパ浮腫患者、地方在住患者、通院治療が困難な患者を対象に、入院での保存療法を行っている。圧迫療法はリンパ浮腫療法士が指導し、自宅で続けられる圧迫療法を練習する。集中排液期には、圧力計（Picopress）を用いて大腿 20～50mmHg、下腿 50～70mmHg の間で患者ごとに圧力を設定している。治療中、適宜エコー検査を行い、集中排液期から維持期に移るタイミングの参考にしている。圧迫下の運動は理学療法士が指導し、エルゴメーター、水中トレッドミルなど、自宅でも続けられる運動を練習する。また作業療法士が、日常生活動作の訓練を担当する。自主トレーニングとしては、筋トレ、6000～10000 歩/日の歩行を課題として設定している。運動機能、認知機能に問題がない患者は、病院に隣接するスポーツクラブ JEXER の利用にも挑戦している。治療効果の評価には、患肢周径、体重、大腿四頭筋筋力などの身体能力測定、自己効力感や QOL 評価などを用い、治療に携わる多職種メンバーが客観的に治療効果を把握できるようにしている。入院期間が 2～4 週間と長期であるため、途中で気分の落ち込みが生じる患者もいる。入院 1 週間後にすべての患者で臨床心理士による面談を行い、その結果によってその後の治療方針（もっとがんばるように励ました方がよいのか、少しペースを落とした方がよいのかなど）を検討している。

「自宅でも続けられる圧迫療法、運動療法」を常に意識しながら、入院中に徹底的にセルフケアの練習を患者自身にしてもらうことで、ほとんどの患者で退院後もリバウンドなく浮腫のコントロールが可能となる。また、多職種が 1 人の患者に関わるため、治療方針にばらつきが出ないよう、週 1 回のカンファレンスの他にもこまめに連絡を取り合うようにしている。

MEMO

https://gurutabi.gnavi.co.jp/a/a_1904/

日本リンパ浮腫治療学会四国地方会
世話人一覧

＊顧問

社会医療法人真泉会　今治第一病院　　加藤逸夫

＊代表世話人

医療法人　リムズ徳島クリニック　　小川佳宏

＊世話人

徳島大学病院　形成外科　　山下雄太郎

香川県立中央病院　形成外科　　古市浩美

香川労災病院　形成外科　　小野田聡

高知大学医学部　外科学外科２講座　　渡橋和政

高知大学医学部付属病院　形成外科　　吉田行貴

独立行政法人国立病院機構　四国がんセンター　形成外科　　河村進

独立行政法人国立病院機構　四国がんセンター　形成外科　　山下昌弘

医療法人　リムズ徳島クリニック　看護師　　髙西裕子

徳島大学大学院　医歯薬学研究部　看護学講座　　今井芳枝

香川大学医学部付属病院　看護部　　吉原章子

日本赤十字広島看護大学　成人看護学　　大西ゆかり

＊日本リンパ浮腫治療学会四国地方会　事務局

医療法人　リムズ徳島クリニック

〒770-0047　徳島県徳島市名東町 2-559-1

TEL：088-634-1122　　FAX：088-634-1630